

佐保会兵庫県支部だより

第17号

佐保会兵庫県支部事務局

神戸市東灘区魚崎北町4-15-14-707
〒658 TEL 078-451-0654

但馬の城
竹島城



林 利三郎氏画

祝誕生「若草」

支部長 津野 貞子

支部便りも第17号を迎え、順調に定着し発行が待たれるようになった。佐保会兵庫県支部では先に高齢者を対象として「陸会」を発足させ、大先輩が残した素晴らしい伝統を守っていききたいと努めてきた。今回若いエネルギーの集結である「若草」を誕生させようとの気運が高まり、一年の準備を経て本年発足の運びとなった。誠に喜ばしい。皆さんと共に喜び手を取り合って英知を集め、大切に育てたいと思う。いつだったか私は通勤のJRの車中で軽い本を読んでいた。隣の席に予備校生らしい一団が乗込んできて、例の如く大声で話し合う賑やかさ。何となく聞こえてきた中に「今日のあれ何と書いた？」

「あ、犬も歩けばの後だろうか？」私は当然「棒にあたる」こんなことをと思った。「俺、猫も歩くと書いた」私は思わずブーツと吹き出した。「犬も歩けば猫も歩く」と復唱してみた。私なら「棒にあたる」以外頭に浮かばない。そういえば奈良なら「犬も歩けば鹿も歩く」だ。ドイツのアウトバーンでは道路の両側にいろいろの動物の絵入り立札が並び、こんな動物が飛び出すと注意を促していた。

発想の転換というとなかなか難しいことの様だが、可能性をいろいろ考えてみると「犬も歩けば猿も歩く」でも少しもおかしくはない。私は既成の言葉に捉われる頭の固さを恥じた。若い人達の柔軟性を見せつけられた思いだった。

千人を越す支部会員の中に、毎年新しい世代の入会がある。母校八十周年の喜びの時、佐保会員を前にして大先輩の小倉遊亀先生が、御自身お画きになった緞帳の桜を指して、老木と若木が相和して爛漫と咲き誇るこの桜こそ将に奈良女子大の象徴である、と朗々たるお声で披露された。私達は感極った。今こそ熟成した「陸会」と年々新しい芽を伸ばし続ける「若草」が手をつなぎ、佐保会の社会的貢献度の増幅を図ることはこの上もない前進であると思う。

支部総会

盛りだくさんで
なかみ濃く

H5.6.6



受賞記念のお祝の品が贈られる



お祝品は奈良晒を着た”奈良人形”

お 慶 び

受 賞

金丸寿子(S18・文) 藍 綬 褒 章(H 3 度) 調停委員
大 路 涼 子(S16・保) 勲五等瑞宝章(H 4 度) 幼児教育
水戸多美子(S25・保) 従五位勲五等(死後追章)
印部すゑこ(S 3・文) 兵庫県文化賞(H 4 秋)
伊 賀 正 子(S16A・家) 勲四等瑞宝章(H 5 度) 教育
田 中 菊 枝(S 9・理) 正 七 位(H 5-5)

卒 寿 (今回は最初の為90才以上の方)

箕浦千代子 (T11・文) 山形アグリ (T12・理)
宅見まさよ (T13・理) 倉賀野歌子 (T13・家)

卒業後55年祝

浅田きよ(理) 木村信子(家) 大村清子(家)
中島明子(家) 今井ふさ子(家) 桜井君代(保)
桑原富美(保) 大谷たか子(保)

石川實先生の講演より

先生は開口一番“これだけレベルの高い人を前にして話すのは非常にやりやすいです”と。冒頭から暗示を掛けられたせいかな?ととてもわかり易く楽しく、あっという間の1時間半でした。

まず家政学部の近況。10月からこの名称がなくなり生活環境学部になる事。それに伴う新組織づくりのため、関係方面との談合、折衝に日夜ご尽力されている様子を伺いました。

本題の文化論では、制度化された文化の視点から日米仏の文化の根底にある相違を、中根千枝の唱える縦社会やルース・ベネディクトの『菊と刀』を引用して説き、後半はデュルケイムの自殺論をベースに、ご自身の米仏滞在経験をふまえたオリジナル石川説へと展開。アカデミックでしかも平易

な講演でした。

体験談の一コマとしてフランスで初めてのパーティーで喧嘩を売られ、仏語で受けて立った話。以後すっかり仏人に気に入られパーティーにはいつもお呼びがかかる(そこには爽快な議論が待ち受けている)という話は、先生の個性に溢れ、国際舞台で本音の議論で渡り合える実力の証しでもあると、面白く頼もしく伺いました。



フランスへ行くストレスが吹っ飛ぶという石川 實先生

スナップで綴る

平成五年度

佐保会兵庫県

プログラム

1. 開会のことば
2. 支部長挨拶
3. 議長選出
4. 議事
 - (1)平成4年度支部事業報告・平成5年度事業計画(案)
 - (2)平成4年度会計報告・平成5年度会計予算(案)・平成4年度会計監査報告
 - (3)平成5年度役員改選
 - (4)「若草」運営委員紹介・運営委員長挨拶
 - (5)「支部だより」編集委員紹介
 - (6)支部会則内規一部改定 他
5. 記念品贈呈 受賞・卒寿・卒業後55年祝
6. 講演 「人と家族と文化」
 ～フランス・アメリカ・日本～
 奈良女子大学
 家政学部長 石川 實 先生
7. 会食
8. 閉会のことば

総会概要

世代を越えて

ぬくもりの輪が…

爽やかな6月の日曜日、本年度支部総会が六甲アイランド・アーバングルメポートで、会員70名の参加のもと盛大に催されました。

今回は長年支部の大黒柱としてご奮闘下さっている津野支部長の斬新で深慮ある企画(「若草」の誕生、卒寿祝の新設等)が発足した意義深い会でした。

議事のスムーズな進行中も、時に新企画をフォローする提言や鋭い質問が出、ユーモラスな私見も飛び出す等、さすが同じ地で青春を過した者同士の心の通い合いを確認した総会風景でした。

引き続き母校の石川實先生よりご講演を戴き、その後場所を改めて「立食パーティー」「若草」の会合と実り多い1日でした。



津野支部長、内山副支部長(司会)の連携でスタート



佐保会本部からのみかんを前にして



佐保会の前途を祝して乾杯!

会場風景

今回は出席者が多く、空席なしで会場は一杯。活発な意見が交され、和やかな中にもエネルギーが満ちていました。佐保会本部から校章入りの女子大煎餅も届きました。

第一回 若草のついで

支部総会の後、アーバングルメボートで開催された「若草」には、睦会（60才以上の会員で構成）以外の佐保会員約30名が集まりました。会に先立ち、津野支部長からご挨拶があり、「女高師と女子大の良さを認め合って佐保会の活性化に役立つ欲しい。そしてやがては社会奉仕を使命とする性格もそなえてくれれば」といった趣旨が期待をこめて語られました。

その後、参加者一人一人から自己紹介と、この会への抱負や要望が述べられました。全体として、生き方やライフワークに連なる

化をめざして 誕生

～に期待する～
H5.6.6



和やかに発会

刺激や情報を求めている事が明らかになり、今後の会の方針に大いに参考になりました。

又、佐保会本部からも熱いエールがあり、当日は出席者全員に、素敵なお皿に盛られたフルーツが配られるなど、期待を集めての誕生でした。

発会の席での

要望や意見から

■情報

- 求める人と受ける側の情報交換。
- 在宅での仕事の情報が欲しい。
- 子供を預けて働く仕事の情報。
- コープの情報紙のように情報交換のコーナーがあるとよい。
- 老後を迎える上での情報。
- 睦会は睦会、若草は若草として

互いに情報交換しながら、同じ土壌で育った者同士が力を合わせるとうい。

色々な情報が得られると期待している。

■交流

- 子育てに埋没しているの、先輩の生き方をうかがい刺激を受けたい。
- 「若草」はできて当然のものが今できた。
- むずかしい会は苦手だけど、「若草」ならついていけると思い参加。
- 社会への通風口として、「若草」に期待している。
- 佐保会への入り口として接しやすい「若草」があるとよい。
- 職場（教育界）では、先輩の力や心を感じる。
- まず顔見知りになること。
- そのことよって情報も集まってくる。
- 仲人役もして欲しい。
- 近所づきあいのような気軽な会。
- ボランティア
- 自分も楽しんで社会につながっていくボランティア。
- 主婦なりのボランティアができれば。「若草」との連らなりで無理なく楽しく人のためになれ

るとよい。

- 今まで先輩のありがたさを感じた。このあたりでお返ししたい。
- 国税を使って勉強した者として社会にお返ししたい。
- 子育て真最中ですが、微力ながら、お役に立てたら。

運営委員会

活動報告

。六月十八日(金)於勤労青少年会館活動資金を得るためのバザーについて相談。

。七月二日(金)於勤労青少年会館バザー用の手作り品の講習

※「若草」の今後の活動については若草色の別紙を御覧下さい。



good ideaは?

佐保会の活性 若草

～若いエネルギー

行事

第一弾はハイキング

六月二十四日(木)、会員にお友達や子供も加わって十五名参加。第一回の行事を祝うような晴天に恵まれ、往路はさわやかな山の空気を満喫しながら、布引の滝へ

の道を歩きました。雌滝、鼓滝、雄滝と続く道筋には、定家をはじめ名高い歌人の十四の歌碑が立っています。それらの歌を詠みながら登って行き、お昼にはハーブ園に到着しました。園内の東屋で、お弁当を広げて休憩した後、種々のハーブを目で楽しみ、香りを味わいました。復路はロープウェイ



若緑と布引の滝をバックに参加者一同

昨年の支部総会で、支部長から佐保会の活性化のため、より多くの若い会員が活躍する方法を考えるようにとの提案がありました。それを受けて有志が何度か会合を開き活動内容を検討し、会の名称を「若草」として六月六日の総会にのぞみました。全会員からの熟い期待のもとに承認を得、ここに「若草」が発足しました。

触れあって 伸びあって

運営委員長 三輪孝子 (S49・理化)

「若草」は奈良女子大学からいつも眺めていたあのなつかしい若草山、そして大きく成長していこうとする緑鮮やかな若草に思いをはせて名付けられました。

「若草」の会員は、二十代から五十代まで幅広く、就職・結婚・子育て・再就職とライフスタイルは異なりますが、その世代に応

じて精一杯生きている中で、個人では背負いきれない悩みや問題をかかえています。そのため、同じ次元で考えたり、もっと自分自身を向上させていける場を求めています。そこで、まず皆様の欲しい情報や相談等を集め、交換したり、提供していく機会をつくる

在職者も子育て真最中の人も、遠近の区別なく、皆様が参加したいという実感のもてる会にしたいと思っています。次に会員の多岐にわたる豊富な資質をもとに、「若草」の場での会員相互の助け合いから、留学生へのボランティアというような国際的に視野を拡げた活動

もできればと思います。最初は空回りですが、同じ一歩を踏みだせないとは思いますが、同じ

ことを考えております。そのためには、肩肘の張らないつながりや大切に、諸先輩方の御意見や御指導をいただきながら、支部会報と共に年二回程度の情報提供や、二ヶ月に一回程度の同好会を開いていければと思っています。また、運営委員が中心になって、

奈良の地で学んだ者同士、関心をもって「若草」を見守り、御意見やユニークな案をどんどん出していただきたいと思います。そして「若草」に一人でも多くの方が参加されることを望んでいます。これからも、どうぞよろしく願っています。

支部会則内規一部改定

「若草」は「睦会」会員以外の会員をもつて組織し、相互の向上、互助をはかる。定例会を年一回開催し、会の運営にあたる運営委員(任期一年)を選出する。

内規3項の②

出版ご案内

高階時子 (S48・文芸) 著

歌集「やまんばのにしき」

短歌研究社 H4.12.18 刊

ミリア・ダヴンポルト 著・佐保会員共訳

『服装の書』

関西衣生活研究会 H5.10.20 刊

(註) 中井長子 奥村萬亀子 河原由紀子 横川公子 岩崎雅美

豊かさって何?

はじめに

岩崎雅美 (S44・家被)

江戸時代の小袖の文様をみると、夕顔や、水につかった水車の文様をほんの少し描くだけで、「源氏物語」の世界を連想させるものがある。また、「古今和歌集」や「和漢朗詠集」の主なところを刺繍で文字散らしにし、着る人と観る人が共に楽しめるようになったものもみられる。そしてそれらの表現手段は、技術的にも美術的にも実に細やかで多様である。ほんの少しの例を見ただけでも、日本人の着物に対する思い入れは、奥が深く豊かだと感心させられる。

一見華やかな小袖の世界も、その文様の発想は俳句や詫び茶の精神と共通しており、目に見える部分は僅かでも、精神的には無限の拡がりがあり、特に自然に対して、日本人独自の美的な表現がみられる。

今回の「支部だより」では、国民的なテーマとも言える「豊かさ」を取り上げ各方面で活躍の方々に、身近なところから世界的視野にまで及ぶ貴重な意見を述べていただいた。

一口に「豊かさ」と言っても、個人の価値観に属することや、社会的な内容に属することがからんでいるが、この企画が会員の方々の興味ある話題になれば幸いである。

(兵庫教育大学)

消費生活相談から見た

豊かさの実感

本多 三洋子 (S52・家住)

この四月に生活科学研究所に転勤するまで、兵庫県立生活科学センターに勤務し、消費生活相談の斡旋、解決を行ってきた。

消費者から直接相談を受けた日々の中で、「今の世の中、本当に豊

かと言えるのかしら。特別の注意を払わなくても、心乱れることなく、快く暮らせるのかしら。」

と考えさせられることが数多くあった。

昭和六十年に、マスクミを販わした豊田商事事件(高齢者がターゲット。勧誘員が親切を装って近づき、「金」を買わせるが「金」は

渡さず、何百万円もの大金だけをまきあげたペーパー商法)。相談に訪れた七十〜九十歳の老人の多くは「家族には内緒なので、センターから電話をかけてこないで欲しい」との一言。家族に相談もできず、ましてやヘソクリを責められるのを心配している老人達。家族の絆の希薄さが一挙に吹き出した事件であった。孤独な老人の状況は、数年たった現在も変わらず、相談に内在している。

若者同士の加害者、被害者の構図も最近の特徴である。突然、若い女性から電話があった男性は、喫茶店でデート気取りで会ったところ、事務所に連れていかれ、数人の販売員に取り囲まれ、七十五万円のダイヤを買わされた。詐欺まがいの商法をゲーム感覚で展開する若者達。また、自分の納得できない事を拒否する勇気を持たない、誰かが何とかしてくれるという他人依存型の若者達。

豊かさとはほど遠く、自立できない、心さびしい人間関係を垣間見た思いであった。

物質的に豊かになったとしても、心のゆとりや優しさが薄れているような気がしてならない。

(兵庫県立生活科学研究所)

豊かさからゆとりへ

湯浅夏子

(S29・文地)

ライフデザイン研究所の行った「現代高校生の生活環境調査」(註)によると、「自分の家庭は恵まれている」と思っている高校生が過半数を占めているのに、「今のような家庭を自分も将来つくりたいか」という質問に「イエス」と答えた生徒は、なんと三割にも達しなかった。彼等には貧しい時代や悲惨な生活の実体験がない。そして、彼等の父親が仕事中心の生活を堅持し、家庭をほとんど顧みないことに「どこか違う」という思いを抱いていることの現れであろう。

「ポスト団塊ジュニア世代」の彼等は、二十一世紀の担い手であり、明日の社会を見通す鍵を握っている。

一人当たり国民所得、貿易黒字成長率という今までの豊かさを測る物差しでは成功している日本も、労働時間、物価水準、住宅、生活関連社会資本などという物差しでは、それほど水準ではないという声が高まっている。また、資産格差や地域格差も堪え難いし、地球環境という新たな制約も意識せ

ざるを得なくなっている。政府は生活大綱五ヶ年計画を策定し、生活者、消費者を重視した豊かさゆとりの実感できる社会をつくることを目標に掲げている。いまや「ゆとり」が時代のキーワードになりつつある。

豊かさとは、多くの選択肢の中から自由に選択出来ることだと思ふ。ただ働くだけでない生き方を人間らしい生き方を、私達は選択しなければならぬ。

〔註〕「現代高校生生活環境調査」

一九九一年五月 首都圏在住の高校生男女六二〇人対象

(コープ神戸理事)

〔付記〕湯浅氏は、平成五年五月、経済企画庁より、消費者保護功労賞を受賞されました。

住生活からみた

豊かな暮らし

菊澤 康子

(S42・家修住)

豊かな暮らし (Quality of Life) を考えるとき、Well-being (健康)、Welfare (福祉)、Culture (文化) の三つの視点が大切である。

最近私がアメリカやスウェーデンで体験した生活をふまえ、これからの暮らしの基点になるものをつ選んでみた。

①気候風土に根ざした生活文化

と住環境

科学技術万能思想により、快適さ、便利さを追求した結果、エネルギーの大量消費、ヒートアイランド(地球温暖化)現象などが問題になっていく。自然条件の厳しい北欧では、人々は自然を愛し、希求し、大切に生活営んでいく。気候の温暖なわが国でも、自然と調和した暮らしの歴史があり、その知恵を大いに活かす思想と技術が求められる。

②歴史を大切にす住まいとまち

最近の住宅は、設備がよく簡単に改築できるために、耐久消費財化してきている。しかし北欧の文化には、古い街並と伝統的な生活習慣を大切にす伝統があり、人々は外観や暮らし方を変えないで、上手に内装を変えて快適に住んでいる。資源の有効利用の上からも、この考え方は重要である。

③人間尊重の住まいとまち

安全、健康、自立など、障害者、女性、高齢者などあらゆる人を尊重した住まいや共同施設、街づくりの思想は、高齢化社会において増々重要である。生活優先の歩行はもとより、自転車、乳母車、車椅子などが安心して移動できる街

づくりが望まれる。

(兵庫教育大学)

大衆社会の構造と

欲望に関する思想的背景

石川 實

19世紀末から今世紀の初め頃、フランスの社会学者E.デュルケイムは、「アノミー社会」と名づけた構造を提示した。それは、ギルドの衰退によって拘束的規範をなくした庶民が、自らの欲求水準を限りなく上昇させていくのに対し、社会・経済構造がそれに見合うほど変化しないために、人々の欲望水準と欲求充足の手段との間にギャップが生まれることになるというところ、こうして、庶民は永久の欲求不満の煉獄に投げ込まれる、ということの意味するものであった。

では現代はどうだろうか。現代は経済学者ガルブレイスがいうように、「人々の欲望は生産者の手によって掘り起される」時代である。かつて「必要は発明の母」と言われたが、これが逆転して、「モノが生産されたから欲望が生まれる」時代、つまり「発明は必要の母」という表現さえも許される時代となった。こうして現代の日本

は、J.ボードリヤールのいう「大衆消費社会」に近づいている。

「望まないのに、あるいは望んだかどうかわからないのに買わされる」社会である。この欲望の歯止めに、我々は環境問題を重視しようとしているが、それだけで果して十分であろうか。環境問題をいろいろ側面から考えると同時に、自分自身の価値観を問い直すことが必要になってきている。

(奈良女子大学)

石川・菊澤両氏の内容は、平成五年五月に開かれたシンポジウム「豊かな暮らしと生活環境—ニューコンセプトを探る—」(日本家政学会関西支部会主催)から、両氏の了解のもとに一部を抜粋したものである。



参考書

(1) 暁峻淑子著「豊かさとは何か」

岩波新書(新赤版) 85

(2) 中野好次著「消費の思想」草思社

地区だより

ーもより会 他ー

東灘区(H4・11・8)於オランダ畑・イン撰津 14名出席。H5は秋に開催の予定。

芦屋市 地区リーダーの安達様、吉井様相次いで逝去されご冥福を祈ります。もより会は検討中。

中央区・兵庫区・長田区(H5・3・27)於県私学会館 11名出席。藤井様(S48)が世話係で今回から三区合同です。会食歓談し、平成百人一首(?)

とって持寄った短歌の上下の句を合わせるゲームを楽しみ、最後に皆で歌を歌って終わりました。

須磨区(H5・4・15)於ハーバーランド木曾路 14名出席。東京からの若い中村様(S61)も加わり一層親睦を深めました。有志は山科毘沙門堂まで満開の桜を見物しました。岩城様

(S28)は定年退職後、医科生協の理事で老人給食ボランティアにご活躍中。北区(H4・10・24)於山ノ街公会堂7名。昼食はお寿司、他に手作りの物等持寄り話が弾みました。H5当番

は鈴蘭台、もより会開催日は未定。西区(H4・11・30)於神戸西郵便局 11名出席。若草の方々の積極的な努力で初めてもより会を開催。

初顔合わせでも自己紹介や雑談が楽しく此の不思議な解放感は何でしょう。会を続ける為に出来る時

てではないかと思えます。しかし、同期で参加したのは、数学科卒の中野さんと私の二人だけでした。

食事をしながら一人一人順に話をしましたが、皆さんお元気で、仕事に、趣味に、子供のために、それぞれの生活の中で楽しみや生きがいをつつけており、話す声もしつかりし、それぞれの年齢に応じた老後の道を歩んでいる姿に感銘を受けました。私も60才

初めて睦会に参加して

織部ミチ子 (S29・家食)

昨年の夏過ぎでしたか、一枚の葉書(睦会のご案内)を頂き、はて「睦会」って何だろうとしばらく考えました。かつて、大先輩が60才を迎えた折に、睦会に参加したという話を思い出しました。睦会とは、佐保会兵庫支部の高齢者(60才以上)の会です。昨年10月31日に芦屋市のホテル竹園で催され、私も参加しましたが、おそらく女子大卒が参加するのは、昨年初め

に出来る事から小グループを抜けていけたらと若い人に期待します。宝塚市(H4・11・29)於宝塚市民会館 20名出席。第一回でしたがユーモラスな自己紹介もある三時間でした。今後の会のあり方に意見続出、毎年11月最終日曜日開催と決定。宝塚の皆様!積極的な参加と熱意が会を有意義なものにしていくこととしよう。

明石市・加古川市 7月15日に朝霧病院においての箕浦姉(下)に支部からの卒寿祝品をお届けに行き、姉の若々しいお話ぶり積極的な行動や柔軟なお考えに感激しました。伊丹市(H4・11・8)於すし善 10名。7月11日郷様(S8)に同行して頂き

を越え、若い人に負けまいとしても体力的には勝てないものがあるのを感じます。その意味で60才ということをしつかりと受け留め、先輩の方々の生き方を参考にし、これからの老後設計を考えていきたいと思います。

〔付記〕 「睦会」は支部会則の内規3項の①に規定。第一回睦会はS51・10・30 舞子ピラにて30名出席、世話係22期。

山形様(T12)に支部からの卒寿祝奈良扇)をお届けしました。女高師時代の着物や食事、大塚先生や校歌・拝見の話など二時間余も過ごし校歌をご一緒に歌いました。本年度もより会は11月7日於すし善を予定。

三木市等東播地区(H5・3・13)於富勝 13名出席。兵庫教育大関係の方々のお世話で前回以上の参加者があり豊富な話題で会食。その後大学の交流を進める会でありたいと願いました。次は二年後開催予定。姫路地区(H5・5・29)於欧風料理店びすとろ 17名出席。今春叙勲の伊賀先生をお祝いしお話を伺いました。誠実で温かいお人柄に心動かされ勇気づけられました。お互いの近況報告に話がはずみました。



山形様(右)と郷様(左)

尼崎市(H5・10・11)開催。西宮市(H5・9・8)於アルカス甲子園なにわ 14名出席。灘区 本年度中の開催を検討中。

社町紹介

①歴史散歩

みくさやま 三草山源平古戦場

高階時子 (S48・文国)

加東郡社町の三草山は、標高423.9mで、「清水・東条湖県立自然公園」の中にあります。加東郡社町といっても、ご存知ない方も多いことでしょう。まず、最初に社町のことを少し紹介しておきます。社町は、神戸三宮から神姫バスで1時間20分ほど、北西に入ったところにある、人口2万人余りの町です。1975年、中国自動車道が開通し、1978年に兵庫教育大学が開学して



からは、人口が急激に増えました。1991年には、三草山を東に臨む三草藩1万石の陣屋跡に、総合文化施設「やしろ国際学習塾」も完成して、産学住一体の学園都市造りを進めています。

さて、三草山の話に戻りますが、寿永3年(1184年)1月、平氏追討の命が下り、翌2月、三草山で源義経軍と平資盛の軍勢が対決しました。義経はすでに1月、異母兄の範頼と共に、宇治・勢田で木曾義仲軍を破ったばかりでした。義経は京を出発して丹波路を通り、三草山に布陣していた平資盛軍を夜襲し、圧倒的な勝利をおさめました。そしてこの後は、よく知られた神戸一の谷の合戦へと続きます。この時、義経は26歳、資盛は24歳であったということです。

現在三草山には、3つの登山道があり、山頂の三草山神社や、初日の出登山などで、町民に親しまれています。

②兵庫教育大を訪ねて…

新しい学び舎

中井昌子 (S43・家食)

錦を広げたような山なみの紅葉に包まれた加東郡社町の嬉野台に本学があります。

現職の教員が勤務校に籍を置いたまま学べる「教員のための大学」「開かれた大学」として構想され、昭和55年に大学院学校教育研究科が、2年後には学校教育学部(初等教育教員養成課程)が設置されました。5kmほど離れた山国地区には附属中学校、同小学校、同幼稚園があります。

私はフリーな立場でもう一度学びたいと考え、一昨年退職し、今春から大学院生として本学で学ばせていただいています。大学院生は現職の教員が8割くらいいますが、内分けは学部を卒業後すぐ入学した方、海外からの留学生、校長を退職した方など、年齢や職歴がさまざまです。まさに、生涯学習時代にふさわしい大学です。

ここで特筆すべきことは、本学では佐保会員が教官、職員として活躍されていることです。生活・健康系講座には織部ミチ子教授、菊澤康

子教授、岩崎雅美助教授、畑野裕子講師、附属図書館には高階時子さん、附属中学校には村田好子教官がおられ、身近にご指導が受けられることをとても心強く思っています。

日常の雑時を離れて講義を聴き、専門書にふれ、さまざまな学校で教鞭をとってこられた方々のお話を伺っていると、かつて自分が教壇に立っていたころ、モヤモヤとしていたものが霧が晴れるように整理されていきます。感動の日々です。



大学正面

日常レベルで関わる国際交流

私たちのボランティア

射延瑞枝 (S42・家被)
芝美代子 (S43・理化)

ここ10年、我国では国際性というダイナミズムの中で、海外の草の根の人々との交流や支援を目的とした民間国際協力団体(通称N.G.O)が数多く誕生し、主としてアジアを対象に、めざましい活躍をしています。

その団体の一つであるPHD協会(PHD運動にとりくんでいる)へ、私達二人はボランティアとして出入りしています。そこで、アジアの青年達といわば普及段階のお付き合いをさせて貰う中で、多くの感動や学びを体験しております。

PHD運動とは

ネパールで18年間、医療活動に従事して来られ、東洋のシュバイツァといわれる岩村昇博士の提唱によるもので、自分の持っている時間、技能、財などの10%を捧げて、平和(Peace)と健康(Health)を築くための人づくり(Human Development)を意味する国際社会福祉運動です。

その具体的活動は、アジアの草の根の青年を招き、彼らの村の自立や生活上に役立つ農業、漁業、保健、洋裁などを我国で研修するのを支援し、併せて我々もこの交流から多くを学び、日々の生活に生かす事を目的としています。これまでに、ネパール、フィリピン、タイ、スリランカ、インドネシア、バプア・ニューギニア、カンボジア、ミャンマーの国々から70名の青年達が来日しています。

きっかけ ネパールの 若者の話に感動を

「生きるとは、分かち合う事」一九八一年、このメッセージを携えて岩村先生はPHD運動を広めるため兵庫県下を講演行脚されてい

ました。

幸運にも二本木で行なわれた講演で、前記メッセージの原体験であるネパールの若者の話「村の青年が病気の老婆を背負って三日間、山また山を越えて町の病院まで運んだ時、先生がお礼を出すと、私は余っている体力をほんの少しおすそ分けしたまでです」と言っ立ち去った」を聞いた時、強烈で新鮮な感動を受け、何かお手伝い出来る事はないかと、PHD事務所を訪れたのがボランティアの始まりでした。

活動内容 アジアをテーマにした イベントも

ボランティアを始めた頃は、数人の仲間と手芸品を作って町の文化祭でバザーをし、収益金をP

HD協会に寄付するという形をとっていました。このバザーがきっかけで仲間が増え、現在では色々な人が色々な時に色々な形で加わってくれる、25人ほどの寄り合い型ボランティアグループになっていきます。

相前後して活動も多様化し、本来の手芸品作り以外に、PHD研修生のホームステイや技術指導(洋裁)を引き受けたり、アジアに関するイベントも行っています。その他、岩村先生を招いてアジアの話の伺ったり、手作り料理を持ち寄って研修生達と交流会を行ったりもしています。

更に一部のメンバーは岩村夫人を講師に迎えてネパール語に挑戦し、言葉を通じてネパールの文化や風土に触れています。

豊かさとは? 今、アジアの青年から 問われています

神戸の元町にあるPHD事務所へ行くと、アジア各国の研修生やアジアに関心を持つ異分野の人達に出会えます。研修生からは直接アジアの情報が得られるという楽しさもあります。研修生の目は生き生きと輝き、ひたむきに学ぶ姿が胸を打

ちます。その彼らが一致して言う事は「日本人は忙しいね」「子供達は遊ばなくてかわいそう」「粗大ゴミを見て「まだまだ使えますね。もったいないねエ。」等...。又、彼らは目上の人を尊敬し、家族の絆をととても大事に思っています。

彼らとの交流は私達日本人が忘れたもの、失ったものを甦らせて



岩村先生(左端)と研修生(スリランカ・インドネシア)を囲んで……

くれると同時に、人の気持ちになつて考える心の余裕や豊かさを再認識させてくれます。そして今の日本の繁栄がどの様な構造の上に成り立っているのか、いやおう無しに考えさせられます。

※一度気軽に事務所をのぞいてみませんか。

財団法人PHD協会

神戸市中央区元町通五一四一三

元町アーバンライフ二〇二号

TEL 〇七八一三五一一四八九二

平成4年度会計報告 並びに 平成5年度会計予算
(H4.4.1~H5.3.31) (H5.4.1~H6.3.31)

収 入 の 部			支 出 の 部		
費 目	平成4年度決算	平成5年度予算	費 目	平成4年度決算	平成5年度予算
前年度繰越	2,387,534	2,676,837	本部会費	710,000	620,000
会費	1,470,200	1,300,000	総会費	66,750	70,000
内本部会費	710,000	620,000	通信印刷費	138,072	130,000
内支部会費	760,200	680,000	交通費	41,540	30,000
預金利息	49,241	30,000	事業費	206,060	880,000
本部より補助	52,790	40,000	内		
			名簿印刷費	—	400,000
			名簿送料	—	230,000
			支部だより印刷費	136,060	180,000
			睦会補助	30,000	30,000
			若草補助	30,000	30,000
			佐保婦人学級補助	10,000	10,000
			慶弔費	22,792	90,000
			事務費	88,234	100,000
			予備費	9,480	10,000
			小計	1,282,928	1,930,000
			次年度繰越	2,676,837	2,116,837
合 計	3,959,765	4,046,837	合 計	3,959,765	4,046,837

資産内訳

H5.3.31現在

区 分	通常貯金	定額貯金	郵便振替	現 金	合 計
支 部	642,010	1,991,000	4,665	39,162	2,676,837
友愛金庫	5,872	1,120,000			1,125,872

表紙画は創刊以来、林利三郎氏のスケッチを載せてきましたが、ご健康上の都合により本号を以て最後となります。長年にわたり県下各地に出向かれ、優しい画で巻頭を飾って下さいました。誠に有難うございました。

御 礼

平成5年度支部役員

地区リーダー・睦会世話係・若草運営委員

	役 名	氏 名	年 次	住 所
A 支 部 役 員	支 部 長	津野 貞子	S 8・家	灘 区
	副 支 部 長	内山美智子	S20・理	東灘区
	事 務 局	長岡 加代	S33・理数	西宮市
		立花 紀子	S38・理数	東灘区
		松本佳代子	S44・文英	伊丹市
		久保伊希子	S51・家住	東灘区
会 計 監 査	三輪 孝子	S49・理化	須磨区	
	山川はる江	S19・保	尼崎市	
B 本 部 役 員	理 事	山田 桂子	S31・文幼	須磨区
		津野 貞子	S 8・家	灘 区
	評 議 員	坪根 ミキ	S16B・理	東灘区
		内山美智子	S20・理	東灘区
		長岡 加代	S33・理数	西宮市
		山川はる江	S19・保	尼崎市
佐保短大理事	立花 紀子	S38・理数	東灘区	
	八木 静子	S 9・文	須磨区	
C 支 部 活 動 委 員	支部だより 編集委員	竹崎美佐保	S18・文	三木市
		射延 瑞枝	S42・家被	三木市
		芝 美代子	S43・理化	三木市
	大学婦人協会 役員	岩崎 雅美	S44・家被	明石市
		大久保勝美	S31・文国	北 区
	津村 直子	S35・文数	東灘区	

地区名	氏 名	年 次	地区名	氏 名	年 次	
東灘区	柳瀬あや子	S42・文国	芦屋市	増田 千代	S12・家	
	久保伊希子	S51・家住		東 昌子	S19・文	
灘 区	井上 たみ	S15・家	伊丹市	塚口 郁子	S35・家住	
	松浪美年子	S28・文地		都筑 暎子	S37・家食	
中央区	上田ユクエ	S 4・文	宝塚市	中村 俊子	S 9・文	
兵庫区	郷 美美枝	S 8・理		向山 安子	S35・家住	
長田区	瀬川 順子	S41・文英	明石市	中島恵美子	S50・理物	
	藤井 勢子	S48・家食		内匠 慶子	S18・保	
北区	小田 清子	S10・家	加古川市			
須磨区	近藤 房子	S 6・文	三木市	竹崎美佐保	S18・文	
	八木 静子	S 9・文		芝 美代子	S43・理化	
垂水区	竹田喜代子	S22・臨数	西脇市			
	東 卓子	S30・文国		加東郡		
西 区	安達 静子	S28・文社	姫路市	田藤 幸子	S31・家食	
	甚目 律子	S36・家食		相生市	土井千鶴子	S36・家被
	小幡 京子	S51・家被		赤穂市	安東 和子	S38・理植
尼崎市	山川はる江	S19・保	竜野市			
	鈴木 久子	S37・家食		揖保郡		
西宮市	永吉 和子	S34・理化	神崎郡			
	北川 清子	S40・家食		三原郡	前川 節子	S33・家被

睦 会	田辺 富子	S24・理	若 草	三輪 孝子	S49・理化
	西 栄子	S24・家		藤井 勢子	S48・家食
				小幡 京子	S51・家被
				寺田 翠	S37・文幼



新入会員紹介

H5.6現在

氏名(旧姓)	卒業年次	勤務先
赤瀬川久実(奥出)	H5・文修教	兵庫県社会福祉事業団
吉田 文	H5・家生	神戸市役所
豊澤智佳子	H5・文国	大阪商船三井船舶(株)
高橋 恵美	H5・理数	住友ゴムテクノサービス
湯川 夏子	H2・家修食	神戸学院女子短大
山下 佳子	H5・家食	神戸学院大学
田中 正子	H5・文社	
高島 則子	H5・文史	大江橋法律事務所
黒田みゆき	H5・文教	サイバネットシステム(株)
増田 靖子(中野)	H5・文体	
臼井 美岐(仁田)	H5・理修物	住友電気工業(株)
松本 千穂	H5・家修食	京都大学大学院
竹本めぐみ	H3・理物	三菱電機(株)
藤田万山美	H5・理数	日本電信電話(株)
永益 陽子	H5・家食	大関(株)
岡 典代	H5・文修英	相愛大学
余宮まりえ	H5・家修住	中井清志建築設計事務所
屋島亜矢子	H5・理化	奈良女大学院理学研究科
阿部 純子	H5・家被	日産自動車(株)
北出由紀子	H5・家被	(株)ワールド
岩崎有貴子	H3・理化	(株)リコー
寺岡 恭子	H5・家住	(株)日建設計
岸本 佳子	H5・文社	産業経済新聞社
中村 志保	H5・文史	新日鉄情報通信システム(株)
藤谷 晶子	H5・文体	さかい病院
林原 和代	H5・理生	富士通(株)
奥野智栄子	H5・家食	富士火災海上保険(株)
大塚 智美	H5・家住	大林組神戸支店
山中美由紀	H5・文社	新日鉄情報通信システム(株)
中村 成美	H3・理数	姫路市立書写中学校
佐藤 佳代	H5・理数	県豊岡実業高校

事務局だより

- ◇行事報告(H4.10~H5.9)
 - ・芦屋「竹園」で睦会開催43名出席(H4.10.31)
 - ・本部会報、支部だより第16号発送(H4.11)
 - ・役員新年会「竹葉亭」で(H5.1.7)
 - ・佐保婦人学級第10回閉講式(H5.2.23)
 - ・第11回開講式(H5.4.12)
 - ・支部総会及び「若草」誕生の会(H5.6.6)
- ◇お知らせ・お願い
 - ・来年度支部総会はH6.6.26(日)に決定。会場は神戸ハーバランドニューオーター(078-360-1111) 振替口座番号の変更(H6.5より)。現在の神戸 9-72585が0190-8-72585に変更です。
 - ・事務局への連絡にはお名前と共に宛名シールに記載の番号・数字をお書き下さい。

平成5年度佐保婦人学級行事

月・日(曜)	時 間	内 容	講 師	会 場
4・12(月)	13:00~15:00	開講式 采費について	津野貞子先生	三井信託銀行
4・27(火)	13:30~15:30	俳句	和田悟朗先生	勤労会館(三宮)
5・25(水)	13:30~15:30	俳句	和田悟朗先生	勤労会館(三宮)
6・22(火)	13:30~15:30	60点の人生	林利三郎先生	勤労会館(三宮)
7・12(水)	13:00~15:00	組み紐	小田清子先生	三井信託銀行
9・20(月)	13:00~15:00	組み紐	小田清子先生	三井信託銀行
10・4(月)		秋を楽しむ		太山寺保養センター
10・26(火)	13:30~15:30	高齢化社会を考える	木村陽子先生	勤労会館(三宮)
11・9(火)	13:00~15:00	折り紙	吉井豊子先生	勤労会館(三宮)
1・25(火)	13:00~15:00	習字		勤労会館(三宮)
3・14(月)	13:00~15:00	お茶	吉井豊子先生	
3・29(火)	13:00~15:00	閉講式		勤労会館(三宮)

年会費3,000円 当日500円 当日のみ参加、会員以外の方も可。
 婦人学級の連絡先 — 小田 清子 ☎078-591-5468
 坪根 ミキ ☎078-452-0550
 山川はる江 ☎06-431-4856



編集後記

支部だよりの編集は今まで神戸 姫路など臨海都市地区が主でしたが、今回は山一つ奥の「三木・小野・社等東播地区」に廻って来ました。折しも「若草」が誕生し、世も非自民政権に移る新しい変動の年となりました。

その活気を受けて、「豊かさ」をテーマにし見やすく親しめて(写真や大字で)且つインパクトのある紙面をと思いました。委員同士は年齢も住居も離れています。目指す「支部だより」へと力を合わせることが出来ました。これはご寄稿(ご助言等)ご協力下さった皆様のお蔭と厚く御礼申し上げます。尚、紙面の都合上やむなく省略させていただきます点、お許し下さいませ。

(編集委員) 竹崎美佐保 射延瑞枝
 芝 美代子 岩崎雅美

哀悼

- 太田 キク様 (S4.保) H4.7.8
- 水戸多美子様 (S25.保) H4.10.14
- 安達 英子様 (S18.文) H4.10.20
- 徳岡みちる様 (S8.理) H4.12.23
- 田中 菊枝様 (S9.理) H5.5.6
- 吉井 豊子様 (S19.保) H5.6.21
- 藤枝 ふみ様 (S11.文) H5.8.21